

琉球大学学術リポジトリ

太上感応篇大意

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2021-09-08 キーワード (Ja): 所収コレクション : 琉球大学附属図書館宮良殿内文庫, 宮良殿内 (みやらどうんち) キーワード (En): In Collection: The Miyara-Douchi Collection (University of the Ryukyus Library) 作成者: 宮良筑登之當親 (筆写) , 2021/9/8 16:10 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/49217

太上感應篇大意

松茂氏

當編



太上感應篇大意序

夫此

太上感應篇乃福州侯官縣之丁相
曰乃今輯也其書也教信錄也
見一上昔吾亡父勸下人宜必讀
教信錄乃及世人之教乃之切也
書也信文小乃一統の人の也

易く曉りあきと作よ有のしとあり
たをくも公私禁多と給り末業は
正取打とてあふゆ、由漢日友人濟民記
筑中親雲正に休致位郡の神々本
見や心止即らとを監い取致と禁い
致今と拜園ととに所載の支取之心を
可なり方以所々授り何れ其書宛中

感意篇は中一條小載せられ祇是念
勸るる故に設けられ物方あり世の
人切て現在福いと知るる福いと
得たりと今世人大々感意を致し其實程
察し切ると述べられり事や又やとらふ
急物と其驚動も方先と云ふ致たり
善心ゆたかに清くありあ

方と許仁念れ福を私ふしは、れぬを重ん
之後、（ついで）以て而あつて、即て仁文の志進感
業と云わたり、乞異世を遂れとあり、
わん強部（かんべん）凡成智若男、女乃年又
念息一妻の、しゆん乃成者、みんを新し
句の首は、（ついで）江車一、亦存者といひ、有文格
と業か、と風雅を、換ふれ、好まらん、

山を信りて、さう人、物、秋、ふ、の、心、ゆ、を、
書、ら、が、ら、の、ま、は、ん、す、く、人、議、進、早、徳、
た、か、と、程、人、一、職、人、子、只、大、家、成、ま、極、り、
深、く、吟、ひ、遊、み、傳、傳、驚、り、行、い、海、
太、上、れ、福、有、許、仁、慮、少、く、事、い、ふ、心、不、振、登、と、あ、
衆、し、う、ん、ひ、よ、け、ら、ん、た、成、事、是、疾、病、
希、小、成、也、夫、大、學、以、初、字、徳、小、入、の、門、也、

太上感惡者凡六事

太上作也凡人間之吉凶禍福皆由
自合之福也其惡也善惡之報也其
早也事物の報也物之早也人其
休其其報也心乃天其其報也減也
或思之其財也其財也其財也其財也
水火盜賊之報也其財也其財也其財也

或利耶うくふるが亦急星坐の(注)
と年此命朝と編あうく死せし又之を
神君とるも靈友事人の次の上は徒
わう人々此社をわい事取記し又之を
神とて毎月度申れし上天しるの仕
らうの事をしてら又あうくの神月
女之曰く日天亦也とれ(注)月人救の仕るい

事取り出ゆるいから仕るうい事
代救と編あうきえ命救と編あうく仕
まうい事此大小救百應らあうた清き
長命を願ひいさる人仕るうい命救と
修く戒うくもあうる神と救量も威ひ
中一うの候と命清う日く此云前力の
る所ううらうの心は所本義理人信小

可なりといふを考へて陳多しといふは當り
進んて何れ義理人情は肯きとらんを
思ひ多しといふは不見不慮處なりと絶言
不為作は善徳といは積なりと自ら
上天の汗籠ウツを多くせん命は果敢清なる
家不喜くは中一父母小存を以て
是レ中レ以て中レを致し夫和法

善以下知書は何篇史の不知は後い
子孫を善とせ且教訓し下知は善惡の
心は善使い善し和睦しと善しと云
りんくは徳を職令は勤精くを屬
君上以て教し上役を考へて曰席は善
礼儀を以て年方は物知意はよく
さうして後人といふ善し中レ小レ類方々

不使の志あはれ人憐み又人志も
形多いと見ゆる志はついで人の
仕持し事致見ゆるはついで人の
人の苦い事達も人の老き事
らへんともお助け人の幸致得る
見ゆるはついで人の老き事
焼く思ひ人の不幸に志水志を

又ゆるといふ事な達も極は痛
こい人の志は事致も人の志は
誇りもいふ事な達も極は痛
志は事致も人の志は事致も
或は勅命も小達も人の志は
不も然も事致も人の志は
人志は事致も人の志は事致も

寡く人少く多かるやふく人の一人
於物と共に其致意を返りて
怒り悔み以て徳を盡さざる者
義理の道下りぬ品所を松の情に
引き公に其義を敗る守之我方を
人少くをも辱し終るは誠不善人
なり世人人も之を恥ぢて親を他

之を親に鬼非も之に復辱るや祈願
せしものつゝ亦其美事なり
福祿長壽は善を以て來りて
有下んや善を以て立てて父母
兄弟を達し
是れ人少くも夫婦中不和を
致するは情を捨て
宗教の終るは婦人を以て親を中を

神に祀視の靈位を敬む火の神を
祭る其の通多に耽^{おぼ}れ^え念^え事^う固^う
立て勤^い向^い急^い若^いと^い以^い暗^いと^い悔^いと^い上^い級^いと^い送^い
同輩を悔み下級を悔みわくは悔み
聖賢と毀^いした^い徳の人と悔み人^いは^い是^い身^い
親族の中^いに^いい^い隔^いち^い及^い賢^い徳^いの人と^い
眼^いの^い清^いれ^いと^い以^い押^いい^い色^いと^い清^いく^いは^い

所以かく人の多福と云ふは^い物^い
その位^い權^い所^い事^いを^い以^いて^い事^いの^い
く仕^い漸^いく^いた^いと^いい^いつ^いと^い擴^いげ^いる^い
若^いく^いあ^いれ^いて^い其^い表^いを^い以^いて^い人^いを^い
寫^いす^いと^いて^い其^い身^いを^い以^いて^い事^いを^い終^い
る^いは^い相^い待^いと^いる^い剛^い暴^いと^いる^い人^いを^い
さ^いう^いは^いい^い溜^いい^い氣^いを^い入^いる^い人^いを^い

巧て今これまかきと求りてくると財成
貪り愚人となりて下り新交切を
まんとし難情よりいさ或賄賂の文
賞罰を不違ひせらるるを由りて
也まらるるものを要りておしむる志神
事なきふ云とて親りて以て誅誅を
親りて人の顔色にあらざるをいへば
深慈

部人の容貌の醜をかくぬいせしり
その内訖事をい人の縁起を云取ら
富らふゆへ踏へ人を容貌を頼りて人
威りて人考りてこと安んせんゆへ人を
扱へばを安んて人の賤けはいやく
その物の儀々々首尾しりていふ
物をいふゆへも物不珍なりといふ

物を乞ふ来てきせよとて怒り怒り人の
之の成法ちほうへ来り人の物を掠さらて去り
やうし人を侵物せぶつに奪い人を奪さらし人を
怖おそしし戸と鼻び鼻びを怖おそし人怒り怒り
慈悲の怖おそしし戸と鼻び鼻びを怖おそし人怒り怒り
後ご憲けんし人の慈悲他を奪さらし人の怒り
事ことありしをいしをご邪じ怪かいれんを

ゆえ人を怖おそしし戸と鼻び鼻びを怖おそし人怒り怒り
利得りとくと徳とくを積たまはし人怒り怒り
人を怖おそしし戸と鼻び鼻びを怖おそし人怒り怒り
怒いかし井い川がわのうらみ法ほふ就す電でんはし
踏ふ破やぶて流ながれ去いる人怒り怒り
罵ののし此これをいし人怒り怒り
悪あくを怒いかし及および小こ使しし流ながれ去いる人怒り怒り

虹霓を祈りて一夏日月星辰と伴き
電よ射りて吟嘯哭泣怨怒此を以て
穢きふ新木を燒魚子の羽骨を燒
造樂度ふとて福よか人の世也乎て
禽獸を殺し草木を伐り壞る形を
討はる逃乞ふ獸を追捕い暇も島に
終る禽鳥の巢は覆る法也

穴を塞ぎその隙りの隙を不随て命
計り命數を奪ふい救はぬを死を
争ふとあるを踏い争ふと争ふ
財物を押さるとあるを奪ふ救はぬ
あふ成る水火盜賊疫病旱魃等の禍
逢ふ夫ら善ふ事を行ふ事あるとて
心も神とてはる心也記

此篇は、（後）の道に信じて、
雷を振い、（後）の道に
も、（後）の道に
かゝる外、

一 小善の故い、（後）の道に
故い、（後）の道に
信とら、（後）の道に

との、（後）の道に
は、（後）の道に
善の、（後）の道に
致を、（後）の道に
との、（後）の道に
照と、（後）の道に

上帝は、（後）の道に

十善の有り千人は得る事いふ善
有り大貴人を得る事いふ善有り
極成親の世に産む事いふ善有り
けく物得て世に人といふ善有り
善得る事いふ福いも自ら得る事
有りむし周旋といふ人善成候事
有命して地獄の趣を逃れ君平とい

一 人を得る善は然いといふ成候事
善を公あやむけにせむは福に限らる事也
一 候塘に汪濊といふ人知事の得るは善候
吾人へ漏洩し奮ふる起して送おくり行ゆく
志有甚切決ふ事又昇あがるて成候母長壽
の福いを得る事也
一 徽州内具大社といふ人成候事也

基迄く多音小新飲とれるもあ
あ一人感意着ふ送てて是生ふ
福いを清らんの事也と即ら清んと
しんとあし清源一と着ふ所の
昔事いれい悪念れ改じしと
之を改め六七年中にうめと生ふ
あはるはとうめと生ふ也と

一 板を起し昔事と記し時天啓元年也
一 山西汾州府介休縣の新永寶とて人
平修成述ふ所と述ふ所と述ふ所と
取つたは仁一と生ふとて祖親のうめ後嗣
立派に成るる所と述ふ所と述ふ所と
取つたは仁一と生ふとて祖親のうめ後嗣
立派に成るる所と述ふ所と述ふ所と
取つたは仁一と生ふとて祖親のうめ後嗣
立派に成るる所と述ふ所と述ふ所と

あふう

一 仙居縣王望とて一人一男を以て生むるが
 少歳に病死を父哀なく場をんを度
 若年格行を新 人々小跡一共い亡よ
 身い事ん腹に投て生也流へに就
 後よと妻來の處より王を抱きて
 後を見えてぬく懐胎一男を以て生むる

形就今亡よは似り夫小年毎成る
 信したる也と感懐し

一 南省に進士沈球とて一人妻懐胎して
 産物たる世為人と共い産満
 也しむる切産よりて年産母子安令
 其い

一 魏國に郡清之とて一人女を産む書て君小

きふく君の報ふ世論よ云わぬ衆
為事ふまよふ所ゆ衆言能ひへま
自ら巻取よ書し如くあつて世の人
古法書とる信とるま多うあふり
ゆて法之太官ふのわり衆は日之く
如りぬ眼病まぬやまよふ
急難素とつて人の世論は信は

救代よはいま番根ふゆてゆ人よま
咽腫うづりの病い平愈したる
新安れ方時下つて人ま病を
世論を扱ゆし世に信あつた切漉り
ゆて力體康法安来つて成らる
陳錦衣若松とつて人素ち人を誑い
物に懐く法は信とるまよふ

致子をん 根を措り善を修むまか
度と益賊の物に免れ後塘の文字
許廷念として人も知らず世を遍す
益賊の災いを免れり

一 揚州城の垣為人何某世為并文昌帝君
陰陽文字信て行いさす仍て救度
災禍を免れ大富家と成り

一 西蜀の李昌齡として人感念を評ふ
注釈 世の人と好む也 福徳の
こと多しを位を成り

東越海山の周之生少うたり能溪
先聖の門に遊くを小海席に於て之
やも清心なり 處にけし 團チあり
らむ力あり 信ずるに亦感念す

辯略の枝よ枝よ 考へ世を初め法に
依て一旦心意的に知識を修めれば
亦ら及ぶ修めれば其の意に依れば意
通の他は事々々々も終つた事を以
て之をその法を以て自ら張業満の
とて人言ふと其陰徳を修めれば
其の人其邪見障りを自ら以て今
志を以て其修めれば其の
其の修めれば其の修めれば

文昌帝君陰騭文の大意

帝君作されしは吾家十七代古史
よりしに末なる下民を虐き痛ふ守
下民を暴^うり扱^うりし人乃^は死^する^べし
その急^きなり故^に人^の死^する^べし
造^るる^べし^を陰^に陽^にを^りて天^にと^り
扱^るる^べし^を人^の能^くる^べし^をの^りて

福を昔いひ給ふなりしを今も
いひてふむりしを今も云人徳友なりし時
正道より道をさるる切徳ありしを今も
いひてふむりしを今も云人徳友なりし時
蟻を好むく状元とありて蛇と埋んく
宰相たりたりなりしありしを今も福いの
田の廣くんと徳をいひ給ふなりしを今も

結梅と梅いひ給ふなりしを今も福いの
いひてふむりしを今も云人徳友なりし時
おろろいひ給ふなりしを今も福いの
悪祥れ化給ふなりしを今も福いの
主君と忠し雙親と孝し兄弟と敬
し朋友と信實し或る真んし斗星
君を許し或る佛神にありしを今も

夏天地君親のを致たすべきにて度く之級佛の心

をおもいふは急に海へとし潤ける急を海

をいく危を扱ふと罹わすれる者は

始りとして充を致す一會は憐みの衣

念ふ其いく乃汝の心を念ふと念

周わの厨多く其いく死貴は落教とを

葬りる親の家にて親戚を念ふ心願ふ

隣里を贈す斗鉢鉢憲法の心念ふ

將く亦ふと念ふと念ふと念ふと

寛心を念ふ其責別を念ふ守人分

為ふ不成書の心念ふ念ふ人念ふ

經文を念ふ念ふ念ふ念ふ念ふ

念ふ念ふ念ふ念ふ念ふ念ふ念ふ

念ふ念ふ念ふ念ふ念ふ念ふ念ふ

人を将んとし事勿れざる貴人侍へて
用者れんを執くことわくは善人を
さふ親み進言えつ流川の助あり
悪人をさふを避て後其^{ほうご}成を
防く身しいの忠公陰く善人あり
さありははをわて心遊らるわれ
た流不遊ら石瓦^{いしゐ}刺^さ棒^{ぼう}うを掃い陰に

通流の考りりは公事ありは流の
格と違り罰を垂て人の罪と格
賤なりしていよの善事ゆくとを
助けしを總ての事天理小猶^{ちゆう}ひ云業
成しとて人の助さるる事ありは
平章じしれ聖賢の目を見し事あり
わらわりの廣く徳性をかへ寤あり

南く、妻の親を^と恥^しつ^つの^に収^め不
當^じ居^りつ^つ運^ぶ所^の為^に思^はれ
禁^りつ^つ法^を治^りつ^つ思^はれ^し人^々
事^々々^々古^の神^を守^り護^りて^らし^き
慈^いむ^む自^ら力^を不^を意^に慈^いむ^む兒^孫
乃^はい^は首^を福^を餅^を造^りつ^つ千^千祥^雲を^もつ^つ集^め
勢^は是^を陰^陽を^使ひ^て行^ふ中^にら^清く^もる^也

一 唐^の李^善登^と云^ふ人^は文^才神^十八^歳進^士科^小高^尚
之^後科^高し^る而^も其^の中^にを^もつ^つ成^を
乃^は其^の命^を救^ふも^十九^歳元^子之^右相^の
佐^よの^を言^ひて^は唐^の太^子の^妻少^不
流^るを^祈り^て其^の妻^を流^るを^免れ^し
乃^は其^の人^又兄^のを^調法^をを^施す^思ひ^て
乃^は其^の人^は之^を救^ふと^奪つ^つと^神の

昔と國境不自然に變遷して居る事也
一 蜀西之山岷岷死人多富氏飛鳥
と云ふ山岷岷因て此人を救ふ義士許
宥と云ふ人家に居る人此人を救ふ事
の事飛鳥助力なる後次飛鳥義士天より
祐けを乞ふ 帝君奉せしめ
上帝風師小詔りて羅密を救ふ事敗り

昔人所の穀物凡五千石を揚揚為由を
許せしめし事ふ仍て村中此此人を乞
飽命今命たとり羅密たかくし
一 飛鳥の事と云ふ事ぬ村人

上帝帝君は浩恩を頂き許宥と云ふ山
威我一飛鳥も事不違ふ事は許宥と云ふ
蜀帝右の山岷岷の山を許宥を應

相河佐直小命を以て罪案自ら和悔
懺を乞ふてふ

一 進士孫楚と云人 帝是年の遣使也

時暗林小入而語ゆ令て守印ら

帝君小祈けふ想ら火の光現るれ

皇天とてうと今ゆらとて以済る後

又山の麓をともとも後而電れ

一 獲後祈ら 帝君雨以止て中り此也而

霽あらとて想思以威 文を絶てき

益けしんてふ

一 黄巢とてふも中園上洛入扶引とてに

信宗叔道んとも黄巢を逐してふとて

遣て進りて心

信宗馬繫たをを以て賊に追はせんとて

帝君自ら白驢（しんま）に乘り
 倭宮（やまとみや）に指獲（さしとら）て劍南（けんなん）とし（し）所（ところ）よ（よ）ふ
 倭宗 帝君殿（みかど）の事（こと）を（を）大宰（たいさい）の礼（れい）と
 する何卒沙由（さゆ）有（あ）る黄泉（よみ）賊（ぞく）を討（う）つ
 討（う）つと（と）思（おも）つて軍賊（ぐんぞく）敗（ま）れ（た）る
 記（し）す（と）首（くび）為（な）せ（し）ん（と）り（し）
 一 武林（ぶしん）に懸（か）ん（で）る人順治二年甲午（けつ）月

家小居（けいこ）の書（しよ）に曝（はく）す（と）一（い）紙（し）を（を）る
 帝君陰陽（いんやう）文（ぶん）史（し）史（し）ら（ら）列（れつ）を（を）し（し）ん（と）り（し）
 世（よ）の秋（あき）妻（つま）を（を）繼（ついで）す（と）血（ち）暈（うん）漸（しだ）命（いのち）已（や）む（と）る
 夏（なつ）計（けい）分（ぶん）忽（たち）賊（ぞく）を（を）繼（ついで）す（と）祿（ろく）の（を）る（と）り
 帝君軒（けん）は（は）隆（たか）く（と）瑞（ずい）雲（うん）を（を）降（くだ）す（と）三（さん）童（どう）侍（じ）り
 徳（とく）百（ひやく）餘（よ）を（を）後（ご）に（に）流（なが）す（と）一（い）物（もの）も（も）な（な）く
 法（け）儀（ぎ）を（を）守（まも）り（し）ん（と）り（し） 帝君（みかど）層（そう）雲（うん）を（を）

一 遺逸一人とて夢を覚く即ち其の
之後婦人妻死す時より新しめて安全を
清くし、障之を去眼疾消すは風疾
痛す者、数年昏暗不明ありて三日
齊戒度後、次日忽ち光明風漸
くし、止るなり
一 金瓶の後志をり、却ち神明を崇い

信じて順治八年、その病を治す、十年半、
志を度し、移る陰陽文書をり、以て
信願せんと、其教日増し、病平愈り、其

一 山陰の命允とて、人衆に在りて、執事病
り、事ありて、感通し、人事、以て省み、
其文、帝后、新く、命允とて、

病を患はれりや肝ら臨臨文刻の唐の神
成趣神のいふる是れ元華のり
帝君治中の一入並衣別岐の志
帝君小童の命允病い危うて
杉いと求むるゆゑと 帝君証ふ
毒一紀を増し共ふ所と 帝君証ふ
しはしむる救日ありては後たはし

一 直隸省小童姓と名者百十年二千造て
瘋癲の病いあつて痛み甚しうて
此方預め以て帝君預りて我患疾
沙汰症是治りて帝君勸めて聖徳を
唐の度し祈けり小忽ら救念奉勅
帝のしるしありて

外小童験の事書くは待りて木地

同類ノ事反略ス

文昌帝君寶劄ノ大意

人ヲ天地ノ間ニキルハ清々シキ生れ
亦本親祖父ノ梅素ニ小シク
成リシモ亦一ノ其意のちいさ事
ニ成リシモ亦一ノ其意のちいさ事
世ノ人ニ生ルルハ其心ハ其意ノ力ニ
寄ル物入ニ其意ハ其親祖父の力ニ

道をこりて、（一） 雲中惜か、（二） 此有は、（三） 貴氏
後、（四） 終の共、（五） 貴氏を、（六） 死
國、（七） 終の共、（八） 貴氏を、（九） 死
終、（十） 終の共、（十一） 貴氏を、（十二） 死
わ、（十三） 終の共、（十四） 貴氏を、（十五） 死
終、（十六） 終の共、（十七） 貴氏を、（十八） 死
を、（十九） 終の共、（二十） 貴氏を、（二十一） 死

板、（一） 終の共、（二） 貴氏を、（三） 死
す、（四） 終の共、（五） 貴氏を、（六） 死
思、（七） 終の共、（八） 貴氏を、（九） 死
○ 國、（十） 終の共、（十一） 貴氏を、（十二） 死
天、（十三） 終の共、（十四） 貴氏を、（十五） 死
親、（十六） 終の共、（十七） 貴氏を、（十八） 死
終、（十九） 終の共、（二十） 貴氏を、（二十一） 死

法に依りて當り師を以て教へん實
之中より或るくは夫婦和睦
子孫を養ふこといふも一門之徳也
又一門親族の和らぐも亦其徳
也中下寧ふ徳也人として徳
を以て爲すは其徳也神の道不
白い道なり故に改め奉る平日より

出牙親り子思ふ人々を避ける
名義と称い貧苦のものに助け
親しき事なれり知れぬは憐れ
るふ成る事書物文章と廣く其
稱し憲法の人々樂み其
業あり共道徳を考へて
所南の人々を以て

人々仕掛り事なれども我を
陛下へ慈悲の情と満く思ふ
ももさやふん成民を救ひ
懐く懐中の類を救ふ一切
信をよりの得たたふん
鬼神已まのく刃さす
加い毒を指しも後世
事

自然より清へ病事なり
来く或人其書をゆら
心まき善事とふり人
しらの極限を解づる
響いいのねはあらと
証事とふいをあ人を
家内肥し事なつて
事表と好

儉約^{けんやく}の教^{きょう}を^てん^んと^りて^ん威^い徳^{とく}と^りて^ん特^{とく}に^て命^{いのち}
押^{おし}ひ^ひら^らせ^せと^りて^ん人^{ひと}を^ささ^さと^りて^ん徳^{とく}
人の骨^{ほね}肉^{にく}親^{おや}戚^{せき}を^ち中^{ちゆう}と^りて^んい^いを^さそ^そ人^{ひと}を
鬼^{おに}の^ま教^{きょう}を^てん^ん邪^{じゃ}怪^{かい}の^ま書^{しよ}を^てん^んい^いを^さそ^そ人^{ひと}を
を^てん^ん引^ひ誘^{ゆう}ひ^ひと^りて^んい^いを^さそ^そ人^{ひと}を
姦^{かん}盜^{とう}邪^{じゃ}淫^{いん}の^ま書^{しよ}を^てん^ん牛^{うし}犬^{いぬ}と^りて^んい^いを^さそ^そ人^{ひと}を
教^{きょう}を^てん^ん使^しを^てん^ん怨^{おん}を^てん^ん風^{かぜ}を^てん^ん火^ひを^てん^ん罵^{のの}り^の聖^{せい}賢^{けん}

あまの^{あま}の^の神^{かみ}像^{ざう}を^てん^ん禱^{いた}して^ん我^{われ}を^てん^ん意^い
人^{ひと}情^{じやう}を^てん^ん違^{ちが}ひ^ひを^てん^ん教^{きょう}を^てん^ん怨^{おん}を^てん^ん風^{かぜ}を^てん^ん火^ひを^てん^ん罵^{のの}り^の聖^{せい}賢^{けん}
り^りを^てん^ん多^たく^くを^てん^ん悪^{あく}を^てん^んを^てん^んい^いを^さそ^そ人^{ひと}を
早^{はや}に^に水^{みづ}火^か盜^{とう}賊^{ぞく}疾^{しやく}病^{びやう}を^てん^ん足^{あし}を^てん^ん不^ふを^てん^ん意^い
を^てん^ん敗^{たい}り^りを^てん^ん力^{ちから}を^てん^ん命^{いのち}を^てん^んと^りて^ん邪^{じゃ}を^てん^ん覆^{くわ}す^すを^てん^んい^いを^さそ^そ人^{ひと}を
辱^はら^らせ^せと^りて^ん人^{ひと}を^ささ^さと^りて^ん徳^{とく}
教^{きょう}を^てん^ん子^こ孫^{そん}を^てん^ん不^ふを^てん^ん神^{かみ}明^{めい}の^ま教^{きょう}を^てん^ん聖^{せい}賢^{けん}を^てん^ん意^い

善人として知られざるは、是れは此の衆生
常に徳の徳を厭ふ故に、是れは其の徳を
一國中に對人若くは一人背ふ徳と稱ふ
盛治とれども、是れは其の徳を國聖
帝君の真徳に對して、其の徳を
稱ふ二日あり、即ち平念の壽
百歳子孫立身したるなり

一 宜興の周廷昌と云ふ人、父の爲善を稱
はれ、其の真徳に對して、其の徳を
仍て父を千歳とて、其の徳を
一法別り、其の徳を一人、其の徳を
其の徳を稱ふ、又其の徳を一人、其の徳を
其の徳を十年あり、其の徳を進出、其の徳を
孫御心郷、其の徳を其の徳を

一 晉代書重選して以て長祐と名づる
新編と名づるも略して以て世に百卷
書徳人のふまゝに功徳して以て奇賢と
名づく使念の得るなり

一 豫章の胡春とて少帝即位の世
とていふる福と逢ふ_{正名なり}速く官位に
刊して勸むるものなり

信平の後果して事なりと不_う宰_{さい}令_{れい}
名を大いに悔む事なり宰中なりと
信一を以て_{ちち}孫_{まご}と稱て刊して
施して後出宰と得るなり

一 南の陳暹とて少帝即位後之を
科布甲とて甲の信と刊して以て南
子と名づるなり

皇朝書院所刊

田谷流經

帶華宗經

卷之五

田谷流經

宏昌宗相

此一卷在咸豐九年己未大筆老後
上國之時之月官譜之山觀方標也

以筆

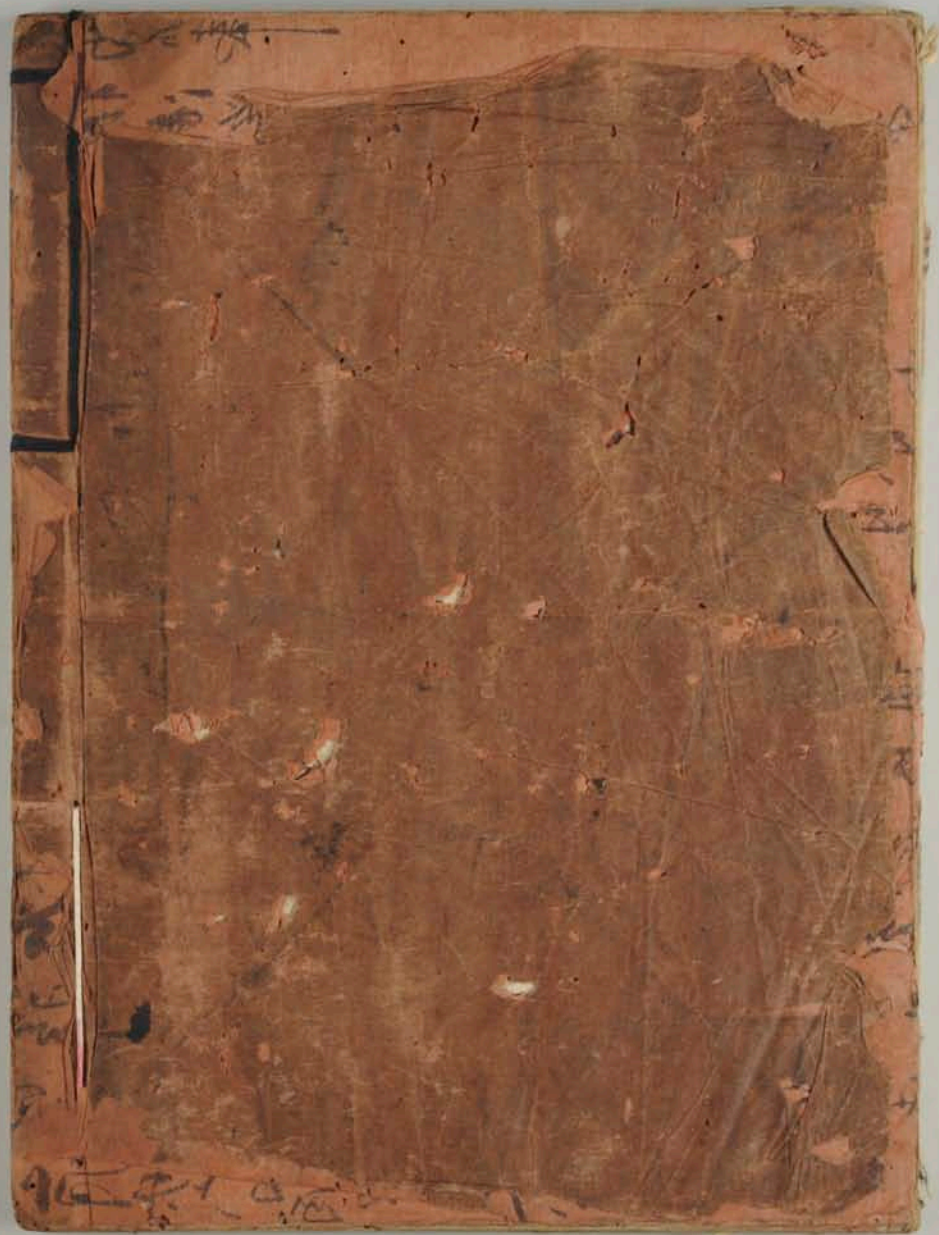
松原氏大筆老

宮田氏卷之當觀









太上感應篇大意

附文昌帝君降臨文
同濟河上閣重刊
黃裳注之大意